

宮森小事故 忘れない

石川高校

被害者の証言切々と

【うるま】6月23日の慰霊の日を前に、石川高校は3日、平和学習講演会を開いた。「忘れない 忘れてはならない」宮森小学校ジェット機墜落事故から53年」と題し、事故を描いた映画「ひまわり」製作に関わる地域協力プロデューサーの宜野座映子さんが講演した。

映画「ひまわり」製作地域協力者 宜野座さん講演



墜落事故発生当時の様子を語る宜野座映子さん（右）＝3日、うるま市の石川高校



宜野座さんは映画製作のために被害者を訪ねて証言を集めている。初めて証言を聞いたときに、宜野座さんは「あまりにすごいので、その場で座り込んでしまった」という。

事故発生当時、現場には焼け焦げて男か女か分からない子どもがいたことや、補償金の支払いに訪れた米兵に被害者の両親が「あんたの子どもをここに連れてこい」と話め寄ったなど、悲惨な事故の様子を語った。

講演後、伊波恵さん（3年）は「基地問題は沖縄だけでなく日本全体の問題でもあるのに、沖縄と本土で温度差がある。自分たちだけでは解決できない。本土の人にどういふ状況を伝えて深く考えてもらうことが解決の第一歩になると思う」と語った。

生徒を代表して喜友名駿貴君（2年）が「多くの人や建物が被害を受けたのは悲惨で悲しい。忘れず関心を持ち、語り継ぐことができるようにしたい」と感想を述べた。

（2012年6月21日 24面）

☆ジェット機の事故発生当時、どんなことが起きたでしょうか？

☆宮森小事故を多くの人に知ってもらうためにどうすればいいか考えてみよう

年 組 名前